

新技術の応用を決意

道GIS技術研究会が総会

北海道GIS技術研究会（23社）は8日、札幌第一ホテルで2012年度総会を開き、技術委員会の随時開催などの事業計画を決めた。石田広幸会長は公共事業の削減が進む中、「GISの新技術を実務に応用していきたい」と強い決意を見せた。石田会長は、死去した

高島敏明前会長の後任として、11年10月の臨時総会で選ばれた。会長就任後の半年余りを振り返り、「全国の研究会と意見交換して公共事業削減の影響を実感した。しかし一方では、GISを使った橋梁点検や津波予測ソフトを開発し、新技術を実務に応用する企業が

出現している。新技術をどのように応用するかで会社の発展が決まる」との考えを示した。

事業計画では、技術委員会を必要に応じて開くほか、定例会を地方（道東、道北地区）を含め9月と13年2月に開催。会

員拡大の強化運動を道北地区と道南地区で展開することにした。

また、辞任した監査の後任にイソジエック（本社・別海）の磯田忠雄氏を選出した。



GIS技術の活用による新たな展開を決議した